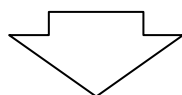


3. 全体ビジョン

3-1 都市交流拠点全体ビジョン

(1) 快適で安心して暮らせる集約効率的な市街地

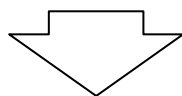
- 交通結節点である駅周辺において、誰もが快適に安心して生活をおくることができるよう、今ある社会資本と今後の成長力を有効に活かしながら、都市機能や生活機能、居住機能などが集積した都市の拠点となる市街地を形成する。
- 拠点への様々な機能の集積のメリットを活かすことで、今後、様々に変容していく市民ニーズに対応し、子どもから高齢者、単身者から核家族、多世代世帯まで、多様なライフスタイルをもった人々がそこへ住み、快適で充実した生活を送ることができる質の高い生活環境を形成する。
- 駅周辺の一部地域において既存商店街などの活力低下などにより、春日井市民のアイデンティティと直結するまちの「顔・核」がなくなりつつある。それを取り戻すために、まちなか居住を進め、交流とにぎわいを創出する。
- 車中心社会から、歩行や自転車、もしくは公共交通中心の社会への移行を促すとともに、身近にある農地や緑地など自然的土地利用を保全・活用し、環境にやさしいまちを形成する。



快適で安心して暮らせる集約効率的な市街地

(2) 個性と活力ある交流拠点

- 魅力ある生活空間を目指すため、周辺都市との交流をより一層高めていく。また、多様性と創造性をあわせもったにぎわいのある元気なまちを形成していく。
- 地域住民の間では、社会参加の機会を通じて新たな地域コミュニティの交流の輪を広げる。また、こうした活動を通じ、地域コミュニティの安定化と活性化を図り、「地域力の持続化」につなげていく。
- 交流はまた新たな産業を起こす場を育成することでもある。これまでは、産業の集積している場に人々が集まり、都市を形成していったが、これからは人々が集積し、交流している場に産業が生まれ、産業が集積していくような都市づくりを目指していく。生活の質的向上に寄与する産業の育成・誘致、同時に、既存産業も振興することで、経済面においてもその自立性を高めていくことができる。

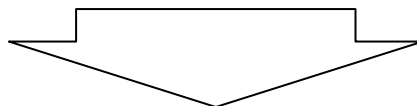


個性と活力ある交流拠点

3-2 基本的考え方（一般的な考え方）

（1）集約効率的な市街地とは

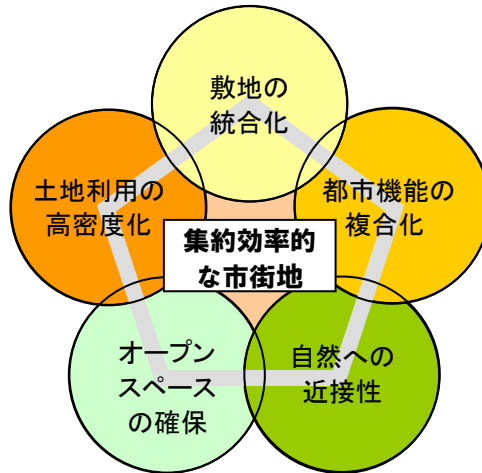
<p>空間 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節点である駅周辺に多様な都市機能が集積されており、地域特性にあったシンボリックな空間を構成している。 ・市街地内の土地利用は、既存の核を中心に有効利用が図られ、中でも駅周辺については高度化が進み、複合的機能を持った中高層建物などが集中的に立地している。 ・同時に、市街地内には公園などの緑地空間や河川を活かした水辺空間などのオープンスペースも適度に配置され、メリハリのあるゾーニングがされている。 ・それぞれの中心部にはその市街地の「顔」となるオリジナルな特徴的空間がある。 ・歩いていける範囲に緑や河川、農地などの自然がある。
<p>機能 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居住、商業、文化、自然などが、ひとつの市街地内に共存し、かつ利用しやすいように配置され、人々は身近なところで、それら複数の機能を同時に享受できる。 ・まとまった居住地の中で、多様な世代、世帯、職業層の住民が生活し、それぞれのライフスタイルを実現することができる機能を備えている。 ・都市的機能の集約を図る一方で自然との近接性を確保する。 ・1つの市街地にあらゆる機能を集約させるのではなく、地域の状況に応じ、市街地ごとに機能の分担を図る。
<p>交通 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の各市街地は鉄道・バスなどの公共交通によるネットワークでつながっており、他の市街地や他都市へも容易に移動できる。 ・それぞれの市街地内では、バスを中心に公共交通網が整っていると同時に、歩行者・自転車重視の道路環境が整備されており、安心・スムーズな移動ができる。



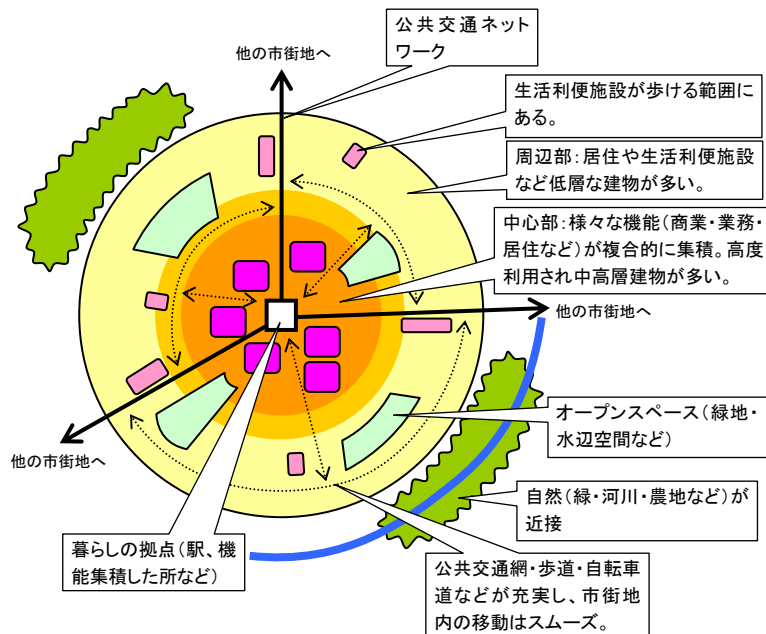
<p>生活 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地内では、鉄道やバスなどの公共交通や、買い物・医療など生活に必要な生活利便施設が徒歩で利用できる範囲に確保されている。 ・居住する市街地内の職場で働くこともでき、別の都市へも公共交通を利用してスムーズに通勤等ができる。 ・自然が近くにあるため、日々の暮らしの中で容易に自然にふれることができる。 ・地域住民間での交流が盛んになり、にぎわいがある。
<p>社会 イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスなどが効率的に提供でき、財政的な負担が軽減する。 ・市街地を拡散させる無駄な開発等を抑制でき、周辺の自然等が保全されている。 ・CO₂排出量の削減など環境負荷低減に寄与できる。

○集約効率的な市街地の概念

<市街地形成に必要な取り組み>

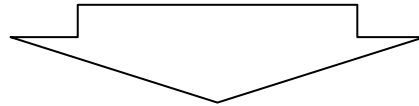


<市街地のイメージ図>



(2) 交流拠点とは

空間 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活や交流を快適にするために、生活利便施設など様々な機能が集約され、空間的にうまく配置されている。 生活者や利用者のニーズに応じて集まりやすい場所や施設がある。
機能 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏レベル～広域圏レベルまで様々な規模の交流や市民交流、文化交流、観光交流など、多彩な分野の活動を生み出している。 広域交流拠点、都市交流拠点、地域交流拠点など拠点の特性にあわせた機能が分担されている。 活発な交流が引き金となり、新しい活動や機能が生まれている。
交通 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 市域はもちろん周辺都市からも人々が集合しやすい交通手段が整っている。 高齢化社会に合致したバリアフリー化が徹底され、誰もが利用しやすい環境が整っている。



生活 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 人々がコミュニティなど交流の場を通じて地域社会と関わりをもって生活している。また、コミュニティ内での相互理解も進み、安心した生活を送ることができる。
社会 イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 各拠点が自立し、連携しあうネットワーク型のまちを形成することができる。 交流がアイデンティティを向上させ、まちへの愛着を高める。 コミュニティビジネス等市民発の新しい地域活動が活発になり、生活の質が向上する。 交流がビジネスを生み、地域内雇用が増加する。

○拠点性と交流内容の相関概念図

	生活交流	市民交流	文化交流	観光交流	産業交流	国際交流
広域交流 拠点				■	■	■
都市交流 拠点		■	■	■	■	■
地域交流 拠点	■	■	■			

< 交流内容の定義 >

- 生活交流…地区内における生活に密着した住民の交流。コミュニティ活動など。
- 市民交流…市内における市民の交流。市内各所の公共施設の利用、NPO 活動など。
- 文化交流…コミュニティ内から市外まで含めた文化面での交流。芸術振興活動など。
- 観光交流…市内外からの観光を目的とした交流。宿泊、旅行、観光 PR など。
- 産業交流…主に市域を越えた産業振興のための交流。企業誘致、研究開発など。
- 国際交流…海外との交流。姉妹都市との交流、留学生・外国人労働者の受入れなど。

3-3 春日井市の都市構造と交通形態

春日井市全体の都市構造と交通形態から現状を分析し、春日井市全体としての方向性（➡）を検討する。

(1) 空間イメージ

<都市拠点>

- 商業集積が進む J R 勝川駅周辺、市役所など公共施設が集積し、交通結節点でもある J R 春日井駅・市役所周辺、市東部の広域交通結節点である J R 高蔵寺駅周辺の 3 つが大きな都市核を形成している。人口集積もその 3 地区周辺に進んでいる。
- ほかに、ある程度の商業施設・公共施設が集積した地域の生活拠点として、味美、鷹来、坂下など複数の地区、旧国道 19 号（鳥居松線）沿いなどがある。また、交通利便性が高く、今後良好な市街地形成が期待される神領なども同じく拠点として位置づけられる。



都市核（J R 勝川駅周辺、J R 春日井駅周辺、J R 高蔵寺駅周辺）や商業集積のある地区など将来的に生活拠点となりうる地区の都市機能を充実し、集約効率的な市街地形成による拠点化を図る。

<市街地>

- 春日井市の市街地は、西部地域については勝川や鳥居松地区を中心に北側へ住宅地が拡大し、東部地域も国道 19 号沿いを中心に分散傾向にある。今後、人口はピークを迎え、その後、減少が予想されているものの、世帯分離等による世帯増は依然として続くため、当面は市街化圧力が高い。



市街化圧力を郊外に分散・拡散させるのではなく、将来の行政サービスの効率化や防犯対策等を見据え、予め集約効率的な市街地を形成するように誘導する。

<土地活用余力>

- 市内には区画整理完成直後や実施中の地域が複数ある。また、市街地近隣にも開発余力の高い箇所がある（J R 春日井駅南東側など）。それらの地域は低・未利用地も多く、土地活用余力が高い。



暮らしやすい市街地となるよう土地利用転換や規制・誘導を含め、地域特性を活かした計画的な整備を行う。

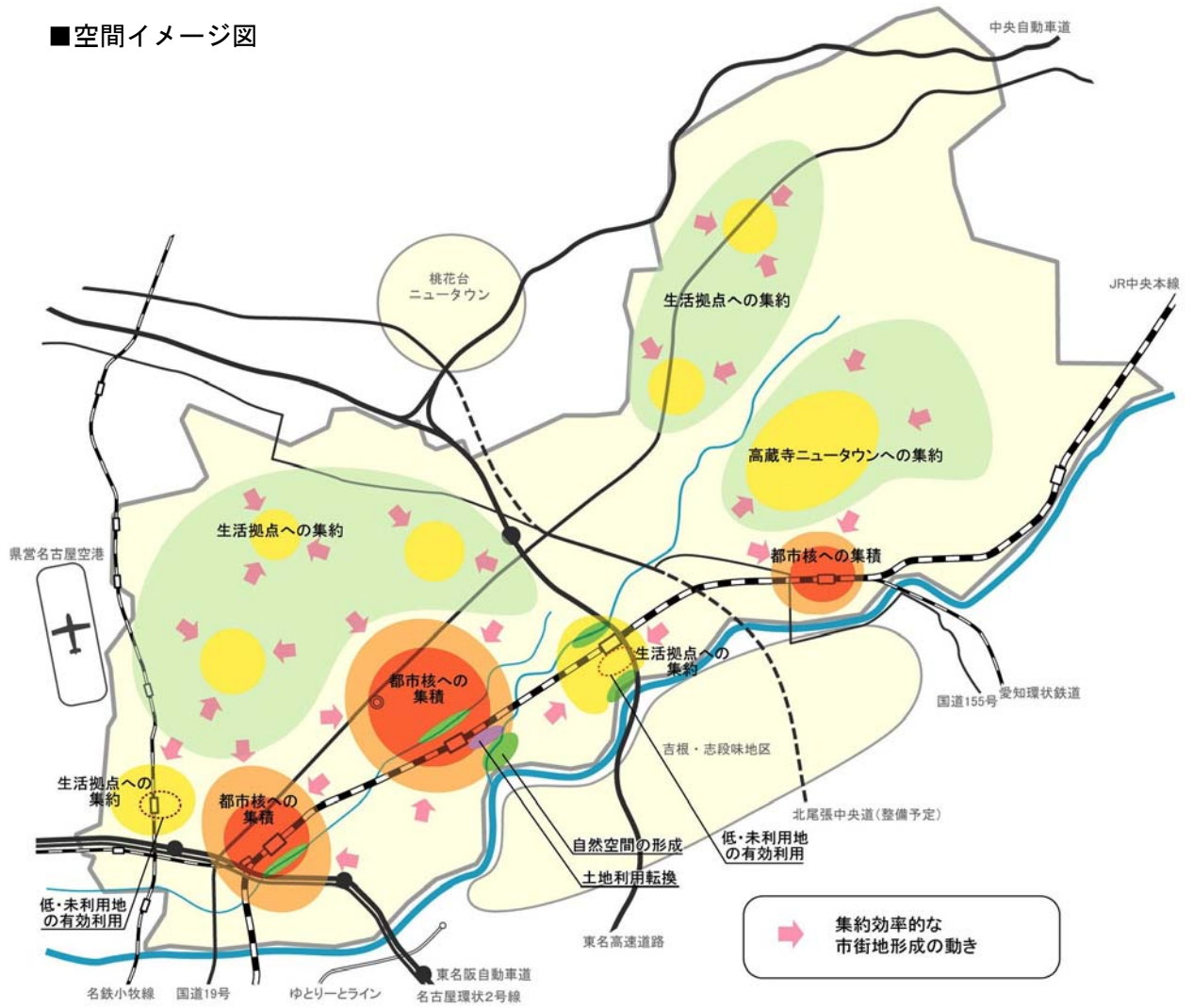
<自然空間>

- 庄内川、内津川、地蔵川など自然空間（河川）が市街地の中や近郊に存在する。特に J R 春日井駅や J R 勝川駅、J R 神領駅はその近接性が高い。



快適な市街地形成のためには自然空間も必要であり、河川を軸に自然・緑のネットワークを形成する。

■空間イメージ図



(2) 機能イメージ

<行政・文化>

- 全市レベルの公共施設は、市役所周辺地区に集積し、行政サービス・文化の拠点を形成しており、利便性が高い。
- 総合体育館、市民病院など一部の全市レベルの公共施設は市役所周辺から離れたところに立地している。

➡ 将来の人口減少を見据えて、集約効率的な市街地形成とにぎわい交流の創出にむけた、公共施設の適正な配置を行う。

<商業・業務>

- JR勝川駅前、鳥居松地区・JR春日井駅前に既存商店街を中心とした商業地が形成されている。一方、春日井ICからJR勝川駅前までの国道19号沿いなどには、大型店を中心としたロードサイド型の商業地が形成されている。このようなロードサイド型商業の影響力は大きく、商店街は雑居化や空洞化するなど厳しい状況にある。

➡ JR春日井駅周辺をはじめJR勝川駅周辺では、広域交通拠点性を活かすため、商業・業務など広域的にも付加価値の高い機能集積を進め、新たなにぎわいと交流を創出する。

➡ 生活拠点では、日常生活の利便性を高めるため、新たな商業施設を誘導する。

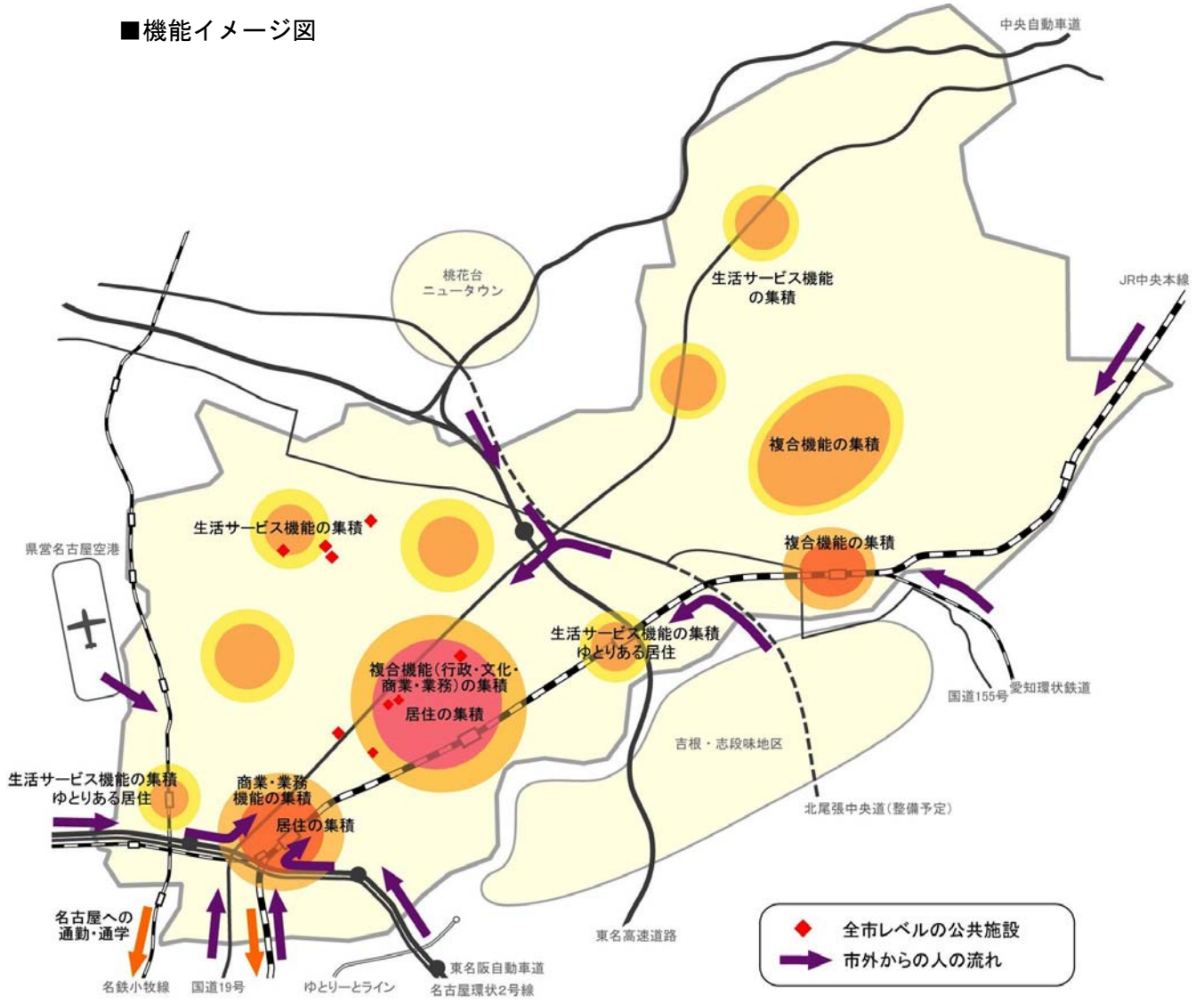
<居住>

- 市全体の人口は増加しているが、将来的には少子高齢化による自然増の減少や社会増から社会減への転換などが考えられ、大幅な人口増加は見込めない。しかし、世帯増は続くため、居住地の郊外への拡散・低密度化が進む可能性も考えられる。

➡ 都市拠点を中心に、居住機能とともにオープンスペースや自然空間などのアメニティ機能など機能の集積を図り、集約効率的で住みよいメリハリのある居住地を形成する。居住地内では、歩いて暮らせるような快適な環境を形成する。

➡ 拠点の機能を高めることで居住地としての魅力を向上させ、市外からの転入居住、市内居住者の住み替えを促進させる。

■機能イメージ図



(3) 交通イメージ

<道路>

○広域な幹線道路網として東名高速道路、東名阪自動車道、名古屋環状2号線（国道302号）、北尾張中央道（整備予定）が横断軸、国道19号は縦断軸として市を貫通している。国道19号が春日井ICと勝川ICの両インター間を連絡し、市の中心部を通り主要軸を形成している。

➡ 横断軸の道路は名古屋周辺都市との連携を促進させる環状方向の交流軸として、縦断軸は道路、鉄道をあわせ、名古屋都心を中心とした放射方向の交流軸として、広域交流の基盤とする。

➡ これらの幹線道路は市外から人を呼び込む動線となることから、JR春日井駅、JR勝川駅周辺をその広域的な集客拠点として位置づけ、とくにJR春日井駅周辺はその位置関係から広域交流の中核的な最重要拠点として位置づける。

<公共交通>

○市内には、鉄道とバス交通の主要な結節点として、JR勝川駅、JR春日井駅、JR高蔵寺駅の3カ所の拠点がある。

➡ 鉄道とバス交通の結節点として、JR春日井駅の優位性を高め、全市的、さらには広域的なバス交通の拠点性を向上させる。

➡ 集約効率的な市街地を形成するため、市街地内や生活圏内の移動のため、生活バス路線網を確保する。

○行政・文化機能の集積する市役所周辺地区は国道19号沿いにあり、鉄道駅から距離があるため、鉄道利用者にとってはJR春日井駅等でのバス乗り継ぎが求められ、利便性向上が課題である。

➡ 機能集積の高い市役所周辺地区と交通拠点であるJR春日井駅間のネットワークをバス交通の充実により強め、両地区の一体性を高める。

○JR中央本線の駅勢圏は広く、通勤・通学利便性が近隣市などに比べて高いため、鉄道利用のニーズは多い。

➡ 市内にパークアンドライド拠点を形成し、近隣市などからの鉄道利用者呼び込む。

<自転車・歩行者>

○これまでの自動車重視の道路形成に加え、特に駅周辺においては、今後、自転車や歩行者通行における安全性や快適性を高め、人にやさしい交通環境の形成が求められる。

- ➡ 道路や交通関連施設などにおいて積極的に交通バリアフリー化を進め、誰もが移動しやすい、やさしい通行環境を確保する。
- ➡ 環境面への配慮から市民の自転車利用を促進するため、歩行者の安全性・快適性に配慮しながら、自転車通行帯や駐輪場などの整備を進める。

<エアライン>

○味美駅周辺に隣接する県営名古屋空港は、小型航空機の拠点となっているとともに、名古屋都市圏の広域防災拠点空港としても期待されている。

- ➡ 県営名古屋空港は、一層の施設整備と路線の充実を図り、小型航空機の拠点空港としての利便性を向上させる。

■ 交通イメージ図

